

来週の市場とレート予想

	3/14(月)	3/15(火)	3/16(水)	3/17(木)	3/18(金)
無担保O/N	▲0.080% ~ 0.001%				
銀行券	+ 1,000	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 2,000
財政他	+ 5,100	△ 6,000	+ 3,000	+ 3,000	+ 14,000
資金需給	余 6,100	不 6,000	余 3,000	余 2,000	余 12,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 源泉税揚げ	国債発行・償還(2年)			
オペ期日	CP等買入 △ 400 国債補完供給 + 200				共通担保(全店) △ 13,200 貸出増加支援 △ 5,500
オペスタート		国債買入 + 12,700 短国買入 + 12,500			
(日本)	日銀金融政策決定会合(15日まで) 機械受注(1月) 日銀営業毎旬報告(3月10日現在) 日銀が保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の銘柄別買入額	日銀金融政策決定会合(2日目、結果発表) 黒田日銀総裁会見 第3次産業活動指数(1月)	業態別の日銀当座預金残高(2月)	黒田日銀総裁挨拶(決済システムフォーラム) 貿易収支(2月) 対外対内証券売買	日銀金融政策決定会合 議事要旨(1月28日、29日分)
(海外)	欧 ユーロ圏鉱工業生産(1月)	米 FOMC(16日まで) 米 NY連銀製造業景況指数(3月) 米 NAHB住宅市場指数(3月)	米 FOMC、声明発表 米 住宅着工件数(2月) 米 消費者物価指数(2月) 米 鉱工業生産指数(2月)	米 経常収支(10-12月) 米 新規失業保険申請件数(12日終了週) 米 景気先行指標総合指数(2月) 欧 ユーロ圏CPI(2月、改定値) 欧 EU首脳会議(18日まで)	米 NY連銀総裁講演 米 セントルイス連銀総裁講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	▲0.08 ~ 0.001
SPOT 2M	▲0.08 ~ 0.001
SPOT 3M	▲0.08 ~ 0.001
SPOT 6M	▲0.08 ~ 0.001

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は、週初255兆円台から始まり、その後は国債・短国買入オペ等の要因で増加し、258~259兆円台で推移した。無担保コールON物は概ね▲0.01~0.001%で取引され、同加重平均金利は複数先で試し取りが実施された8日(0%)を除くと、▲0.003~▲0.001%のマイナス圏で推移した。ターム物は1~2W物が▲0.01~0%で取引された。10日には期落ちロールではない3ヶ月物の共通担保オペ(全店、固定金利0%、8,000億円)が新規で実施されたが、応札はなかった。翻って海外では、10日のECB理事会で、中銀預金金利引き下げ(▲0.3%→▲0.4%)や量的緩和策の買入対象に金融機関を除く投資適格社債を含める等の追加緩和策の導入が決定された。来週の予定は国内では日銀金融政策決定会合(14・15日)、2月分の業態別の日銀当座預金残高(16日)、1月分日銀金融政策決定会合議事要旨(18日)、海外ではFOMC(15・16日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	▲0.150 ~ ▲0.070
現先(on/1w)	0.0001 ~ 0.003

<CP>

今週の入札発行額は約5,400億円で、期落ち9,300億円(金融機関・ABCP除く)を大きく下回る結果となった。商社やカード会社等複数社の大型期落ち案件が、継続されなかった。a-1格相当の3M物入札発行レートは、0.001%割れ~0.01%台後半での出合いとなった。現先レートは、0.0001%~0.003%程度で推移した。来週の期落ち額は、約6,600億円となっている。17日に、CP等買入オペ(5,000億円)がオファー予定である。

<TDB>

10日に国庫短期証券3M第592回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0802%(前回債△0.0902%)、平均落札レートは△0.0902%(前回債△0.1018%)と前回債から利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.0875%近辺の出合い。6Mは△0.016%近辺の地合い、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週は16日に1Y、17日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは、週初▲0.06%~▲0.075%での出合いから始まったが、9日には国債買入オペが8,900億円オファーされ、▲0.08%~▲0.095%の出合いへとレートが低下した。翌日10日にはTDB3Mが発行されたこともありレートが上昇し▲0.065%~▲0.08%近辺の取引。週末には短国買入オペ・国債買入オペが合計2兆5,200億円オファーされ、▲0.10%近辺までレートが低下し越週した。SCは5年123・124・125・126回債、10年325・328・329・339・340・341回債、40年7・8回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。